

〈展覧会紹介〉 テーマ展「ワンダー☆浮世☆ランド」
コレクション展「華麗なる工芸の世界」

[2～3]

〈イベント報告〉特別企画展「生誕150年記念 菱田春草展 不朽の名作《落葉》誕生秘話」

[4～5]

〈イベント報告〉コレクション展「生きもの大集合！」

[6]

「旅するコレクション～海を渡った画家たち～」

[7]

令和5年度 新収蔵品紹介

[8]

ボランティア新規会員募集

実技講座受講生募集

休館日のお知らせ

表紙：菱川師福《馬威図屏風》(部分) 昭和12(1937)年 福井市立郷土歴史博物館蔵 (片山外吉氏寄贈)



ワンダー ★浮世★ ランド

2025
4/11 FRI ~ 5/11 SUN

【休館日】 4月14日(月)、21日(月)、28日(月)、5月7日(水)
【開館時間】 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
【観覧料】 一般・大学生 100円 (20名以上の団体は2割引。他の割引との併用不可)
※スマホ決済アプリPayPay(ペイペイ)対応
高校生以下(生徒手帳をご提示ください)、シニア70歳以上(身分証をご提示ください)、障がい者手帳等をご持参の方とお付き添いの方1名は無料
4月20日(日)の「家庭の日」は無料開放
【主催】 福井県立美術館
【後援】 福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ、こしの都ネットワーク、月刊URALA



庶民の文化が花開いた江戸時代。当時の活気を今に伝える浮世絵は、今や世界中から注目され、多くの人に愛されています。元々の「憂き世=はかなく無情な世」という意味から、現世、そして享楽的に生きる当世と読み替え、“今”を楽しんだ町の人々の生活。本展では、福井に由来する題材も交えて浮世絵のはじまりから最盛期を経て地方へと広がっていった様子をご覧ください。洒落で、粋で、滑稽な風情の中に迷い込んでみましょう。



①



②



③

庶民の自由な旅行は制限されていた江戸時代。それでも、伊勢神宮など神社仏閣の参拝や、湯治を目的とした旅は許されていました。ここに目をつけ、旅行ブームが巻き起こります。火付け役となったのは、弥次さん喜多さんで有名な十返舎一九の滑稽本『東海道中膝栗毛』や、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」でした。このブームに乗って、全国各地の名所を集めた『名所絵』が発展します。旅行ガイドのように、人々にまだ見ぬ土地への憧れをかき立てた『名所絵』には、福井の名所も登場します。今や世界中に多くのファンがいる葛飾北斎や歌川広重の描いた江戸時代の福井をお楽しみください。

①歌川広重《六十余州名所図絵 越前 敦賀賀比ノ松原》嘉永6(1853)年
②歌川広重(二代)《諸国名所百景 越前三国乃大湊》安政6(1859)年
③葛飾北斎《諸国名橋奇覧 あちぜんふくろの橋》天保4~5(1833~34)年
④歌川広重《山海見立相撲 越前三国》安政5(1858)年
すべて福井県立美術館蔵



④

北斎が！
広重が！
描いた福井

世界工芸の華麗なる

2025
5.17—6.15

作家の手仕事から生み出される工芸作品は、伝統技法を学び、受け継ぎ、発展させて出来上がった結晶です。華麗な作品のひとつひとつには作家による日々の研鑽と、発想を形にするための試行錯誤による積み重ねがあります。本展では、所蔵品から陶磁器、漆器、金工など、幅広いジャンルの工芸を展示し、それぞれの作品に秘められた繊細な技と革新的な術をご堪能いただけます。

楠部彌式

古陶磁から技法や様式を学び、特有の「彩堦^{さいえん}」という技法を生み出した楠部彌式(1897~1984)。顔料を混ぜた彩土を塗り重ね、独特の雰囲気を作り上げました。



楠部彌式《彩堦八つ橋花瓶》
制作年不詳 福井県立美術館蔵

機能美の 刀装具

工芸の魅力は、本来実用品であったものに技巧を凝らした装飾が加えられ、美術作品として鑑賞までに極められている点です。刀装具は、金工、蒔絵漆、皮革など、多種にわたる工芸の技術が詰まって作り上げられる工芸品のひとつで、特有の美を有しています。



《五三桐紋衛府太刀》制作年不詳 福井県立美術館蔵



《南京赤絵四方皿》
中国・明~清時代
(17世紀)
福井県立美術館蔵

大陸の 技術

中国大陸では古くから陶器、陶磁器の技術が発達していました。とりわけ、元代(13~14世紀)に確立された青花(染付)など絵付けされた陶磁器製作が盛んになり、明代(14~17世紀)には交易の広がりも相まって、世界中に広まっていきました。



幼少期より絵画の才能を開花した師福は、四条派を学び、古画の模写を得意としました。その技量から、福井の菱川師宣と称され、菱川師福と号します。晩年に描いた「馬威図屏風」は、自身の少年期の記憶として残る安政6(1859)年の正月行事「馬威し」を大画面いっぱいに描き、当時の活気を伝えています。

菱川師福《馬威図屏風》昭和12(1937)年 福井市立郷土歴史博物館蔵(片山外吉氏寄贈)



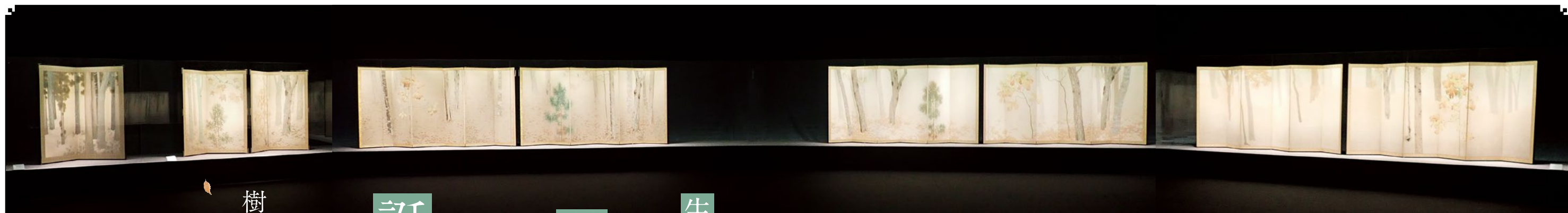
絵馬と天神様

夢楽洞万司

「夢楽洞」という屋号で江戸後期から明治・大正期にかけ、数代にわたり絵馬や天神掛軸の制作を行った夢楽洞万司。その制作にあたっては、錦絵や浮世絵を参考にしていたことが分かっています。中央で盛んになった文化が地方に広がり、生活の中で親しまれていたようすをご覧ください。



夢楽洞万司《まんし天神》江戸時代(19世紀) 福井県立歴史博物館蔵



樹木図の
極致を
観照せよ

令和6年

9/15日-11/4月

前期 9月15日(日)~10月14日(月・祝)

後期 10月17日(木)~11月4日(月) 10月10日(木)に一部展示替

【共催】福井新聞社

【後援】明治美術学会、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、
福井ケーブルテレビ さかいケーブルテレビ、
こしの都ネットワーク株式会社、月刊URALA

誕生秘話

落葉

不朽の名作

菱田春草展

生誕150年記念

《落葉》5連作を一堂に展示した「落葉ルーム」



令和6(2024)年に生誕150年を迎えた菱田春草が明治42(1909)年に制作した不朽の名作《落葉》現存5作品を一堂に展示しました。このうち最後に描かれた《落葉》は当館が購入第1号として所蔵した作品で、開館以来、多くのみなさまに親しまれてきました。今回は、重要文化財《落葉》(永青文庫所蔵、熊本県立美術館寄託)をはじめとした連作を一つの展示室で展示することで、春草が心血を注いで絵画と向き合い、新しい日本画を生み出すことを目的として凝らした工夫を一度に見比べることができました。

更に《落葉》誕生の裏側に迫るべく、同時代の日本画、洋画、そして近代画家が参考にした古画も併せて展示し、近世から近代という時代の流れの中で変化した樹木図の系譜を読み解きました。



菱田春草《落葉ノート》飯田市美術館

《関連イベント》

●生誕150年記念 菱田春草展 不朽の名作《落葉》誕生秘話 シンポジウム

【日 時】9月22日(日) 13:30~17:30

【会 場】美術館講堂

【登壇者】司会/塩谷純氏(東京文化財研究所 上席研究員)
中野慎之氏(文化庁 文化財調査官)
吉田暁子氏(東京文化財研究所 研究員)
鶴見香織氏(東京国立近代美術館 主任研究員)

【参加人数】57人

共催/明治美術学会

美術史研究の最前線でご活躍される研究者のみなさまに菱田春草《落葉》をテーマにご講演いただくと共に、登壇者による座談会を通して、《落葉》の魅力を検討しました。100年の時を経て、今なお新たな発見をもたらす春草芸術の顕彰を深める機会となりました。

※座談会の内容は『福井県立美術館 研究紀要第15号』に掲載しております。

●キッズミュージアム《落葉》ミニ屏風をつくろう!

【日 時】10月19日(土) 14:00~16:30

【場 所】美術館1階

【講 師】内藤秀信氏(ゴジラ工房)

【参加人数】15人



●学芸員トークサロン

【日 時】9月27日(金) 18:00~19:00

【会 場】Café de musée PAPOTER (カフェ ミュゼ パポテ)
美術館併設喫茶室

【講 師】展覧会担当学芸員

【参加人数】14人

●親子鑑賞会

【日 時】10月20日(日) 10:00~11:00

【会 場】美術館展示室 [参加人数] 3人

●ワークショップ

【日 時】10月26日(土)・27日(日) 10:00~/13:00~/15:00~/

【会 場】美術館第4研修室

【講 師】宮森昭宏氏(和塗師)

【参加人数】21人 主催/ミュージアムショップ



●春草ナイト「アートと音楽と」

【日 時】11月2日(土) 18:00~20:00

【会 場】美術館展示室等

【演奏者】チェロ 荒井 結氏

【参加人数】58人 主催/ミュージアムショップ

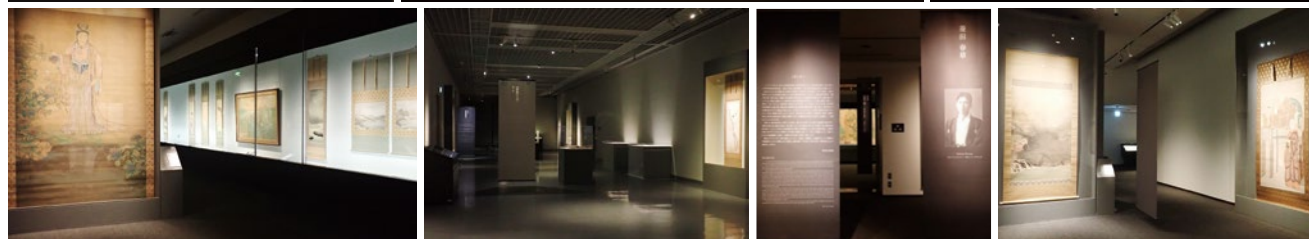
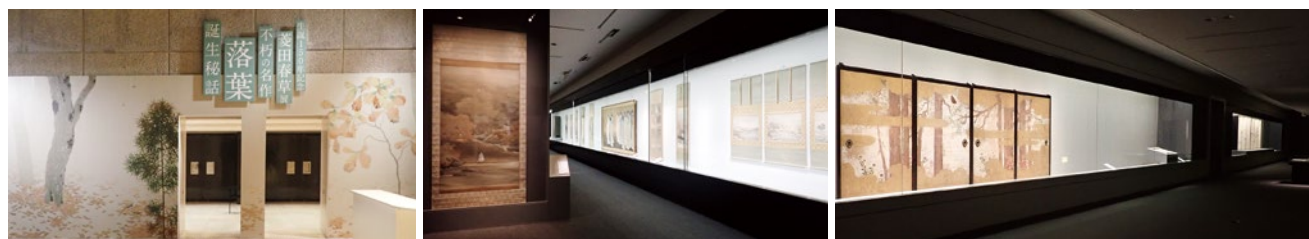
世界を舞台に活躍するチェリスト・荒井結氏をお招きし、一夜限りのプレミアムナイトコンサートを開催しました。

●学芸員によるギャラリートーク

【日 時】9月28日(土)、10月13日(日)、10月20日(日)、11月3日(日)

各回14:00~15:00

【会 場】美術館展示室 [参加人数] 計253人



左：円山応挙《竹雀図屏風》天明5(1785)年 静岡県立美術館、中：酒井抱一《桐図屏風》江戸時代(18-19世紀) 筆の里工房、右：尾形光琳《横楓図屏風》江戸時代(18世紀) 東京藝術大学

《イベント報告》

生きもの大集合!

鯉嘯(Nashville Skyline)紙・シルクスクリーン 1971年(部分)

202412/19^木→20251/19^日

主催：福井県立美術館
後援：福井新聞社、NHK福井放送局、月刊URALA

《関連イベント》

●学芸員によるギャラリートーク

[日 時] 1月11日(出)14:00～
[場 所] 第3展示室
[参加人数] 11人

私たち人間は、古くから犬、猫などの動物、植物や虫などの様々な生きものと共に暮らしてきました。そして、多くの画家たちも身近な生きものを恰好のモチーフとして絵の中に表現してきました。

本展では、当館のコレクションのうち、絵画や工芸など様々な手法で表現された生きものの姿を紹介。36点の作品を展示しました。

《イベント報告》

旅するコレクション

202412/19^{THU}
↓
20252/24^{MON}

※展示替え 1月20日(月)

主 催：福井県立美術館
後 援：福井新聞社、NHK福井放送局、月刊URALA

《関連イベント》

●学芸員によるギャラリートーク

[日 時] 1月26日(日)、2月8日(出)、23日(日)
いづれも 14:00～
[場 所] 第4展示室
[参加人数] 36人

これまで多くの芸術家たちが、海外で技術向上や活躍の場を求め、海を渡りました。

本展では当館のコレクションのうち、北川民次や鈴木千久馬など海外での経験を積んだ画家の作品を紹介。あわせて、池田満寿夫や鯉嘯など国際展覧会で受賞歴のある画家の作品も紹介しました。会期中一部の作品を入れ替え、あわせて70点の作品を展示しました。

鈴木千久馬

鈴木千久馬(1894-1980)は福井県出身の洋画家。1928年にヨーロッパへ渡り、フランス、イタリア、スペインなどで制作を行います。滞欧中にブラマンク、ピカソ、マティスなどの影響を受けますが、主にブラマンクをはじめとしたフォービスムの絵画運動に触れ刺激を受けました。

本展では、第8回帝展特選《四人の女》やヨーロッパ滞在中に制作された《サンマルコ(ベニス)》など油彩作品14点を展示。初期から晩年にかけて描かれた作品を展覧し、画家独自の画風の移り変わりをお楽しみいただきました。

主な画家

北川民次

北川民次(1894-1989)は、独特なデフォルメによる生命感あふれる作風で知られます。20歳で渡米し、働きながら絵を学んだのち、革命後の壁画運動に沸く1920年代のメキシコで新進画家、そして教育者として出発。約15年間滞在したのち、1936年の帰国後は東京の洋画壇に精力的に作品を発表し、第二次世界大戦後は瀬戸を拠点に活動。メキシコでの体験をもとにした著作の執筆や教育活動にも取り組みました。

本展では、メキシコ時代に制作された《男の顔》のほか1956年のヨーロッパ周遊後に制作された《音楽家》など、油彩や版画あわせて17点を展示しました。

令和5年度新収蔵品紹介

令和5年度に新たに購入・寄贈・寄託を受けた作品37点から一部を紹介します。

【購入】

水谷内健次

みずやちけんじ

移りゆく自然と人間関係を記録した写真が高く評価されている福井在住の写真家・水谷内健次。彼の創作の全貌を知るうえで、現代美術作家・鯉嘯が国内外で行った大きなイベントを記録した写真は欠かすことができない。

本収集では、「25メートル 虹のイベント(永平寺、福井)」、「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ)」を撮影した中から、5点を購入した。

《300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (1)》

「25メートル 虹のイベント(永平寺、福井) (1)」 1986年 写真、カラープリント
「25メートル 虹のイベント(永平寺、福井) (2)」 1986年 写真、カラープリント
「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (1)」 1987年 写真、カラープリント
「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (2)」 1987年 写真、カラープリント
「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (3)」 1987年 写真、カラープリント

【寄贈】

とだせいじゅ

戸田正寿 作家寄贈

日本を代表するアートディレクター、戸田正寿。戸田は、アーティスティックでクリエイティブな数々の広告によって、それまでの常識を覆し、新しい広告像を提示。国際的に高い評価を得るとともに、多くの人々を魅了してきた。近年は、光るキャンパス「Lightface」の意匠監修や、刻々と変化する雄島の景観を鑑賞する「Brilliant Heart Museum」を完成させるなど、自身の美意識をかたちにすべく斬新な試みを行っている。

本収集では、一時代を築いた戸田の広告作品や作家の円熟期を示すアート作品を中心に、戸田正寿のクリエイティブの軌跡に触れることのできる15点の寄贈を受けた。

《サントリー・ローヤル(ランボオ編)》

「サントリー・ローヤル(ランボオ編)」 1983年 オフセット
「サントリー・ローヤル(マラー編)」 1984年 オフセット
「X=t (1)」 1986年 オフセット、シルクスクリーン
「X=t (2)」 1986年 オフセット、シルクスクリーン
「AKIRA KUROSAWA DRAWINGS」 1994年 オフセット
「Fantasy Upon Crossover Kit」 1995年 オフセット
「X=t (3)」 1995年 オフセット
「AERA (3)」 1996年 オフセット
「AERA (4)」 1997年 オフセット
「AERA (5)」 1997年 オフセット
「Burberrys BLUE LABEL (1)」 1997年 オフセット
「Burberrys BLUE LABEL (2)」 1997年 オフセット
「AERA (6)」 1999年 オフセット
「MOTHER NATURE KING PRINTING」 2003年頃 オフセット
「GOD BRESS HUMAN KING PRINTING」 2003年頃 オフセット

【寄贈】

とみたけいせん

富田溪仙「越前紙漉下絵」

西上実氏寄贈

紙本墨画 1926(大正15)年頃

展覧会を機に発見された富田溪仙「越前紙漉」の下絵。実際に越前の地に取材して描かれた。

【寄贈】

ごこまついんしんびつ

後小松院宸筆「新古今和歌」

徳本道輝氏寄贈

南北朝～室町時代 三冊

「新古今和歌集」を南北朝～室町時代に写したものの巻末に古筆了仲による極書入り。

【寄贈】	■ 水谷内健次「25メートル 虹のイベント(永平寺、福井) (3)」	写真、カラープリント	1986年	作家寄贈
	■ 水谷内健次「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (4)」	写真、カラープリント	1987年	作家寄贈
	■ 水谷内健次「300メートル レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト(エッフェル塔、パリ) (5)」	写真、カラープリント	1987年	作家寄贈
	■ 加藤卓男「正倉院復元 三彩風字硯」	陶磁器	1989年頃	徳本道輝氏寄贈
	■ 加藤卓男「正倉院復元 三彩水滴」	陶磁器	1989年頃	徳本道輝氏寄贈
	■ 加藤卓男「正倉院復元 三彩筆架」	陶磁器	1989年頃	徳本道輝氏寄贈
	■ 加藤孝造「黄瀬戸茶碗」	陶器	2022(令和4)年	徳本道輝氏寄贈
	■ 十三代 三輪休雪「寧」	陶器	2023(令和5)年	徳本道輝氏寄贈
	■ 福島善三「中野月白瓷 香炉」	陶器	2022(令和4)年	徳本道輝氏寄贈
	■ 今泉今右衛門「色絵雪花墨色墨はじき雪松文花瓶」	磁土	2023(令和5)年	徳本道輝氏寄贈
	■ 伝後円融天皇宸筆「古今和歌集」		室町初期	徳本道輝氏寄贈
	■ 飛鳥井雅春筆「伊勢物語」		江戸初期(天文年中)	徳本道輝氏寄贈
	■ 不詳「つれづれ草」		江戸初期	徳本道輝氏寄贈
	■ 不詳「平家物語」	紙本	江戸前期	徳本道輝氏寄贈
【寄託】	■ 山下清「無題(襖絵)」	襖(鳥の子紙)に描画	1957年	

— 6 —

— 7 —

令和7年度 福井県立美術館ボランティア 新規会員募集

福井県立美術館では来館者と美術館をつなげる役割を担っていただく「ボランティア」を募集します。
ご興味のある方はご応募いただきますようご案内します。

募集の内容	名 称	福井県立美術館ボランティア	活動内容	1. 県内外美術館・博物館の図録、年報の整理 2. 新聞、ポスターチラシの整理 3. 展覧会の見どころや作品についての「ちょこっと案内」 4. 展覧会の見どころをSNSで発信 5. 学校等の団体鑑賞、キッズミュージアムのサポート などの中から、興味のある内容でご活動いただきます。
	募集人数	8名程度		
	活 動 日	月2回程度（以下のいずれか） 水曜日、土曜日、日曜日、祝日、 各展覧会にて開催されるイベント時など ※オンライン会議を開催する場合もあります。		

1. 募集条件

- ・活動開始時18歳以上の県内在住者・福井県立美術館ボランティアの活動方針に沿って、積極的に活動する意欲を持った方
- ・展覧会でのギャラリートークや見どころ解説会、その他フォローアップ研修に参加可能な方
※ギャラリートークや見どころ解説会、フォローアップ研修は主に土曜日に行います。
- ・ボランティア相互連絡のために個人のメールアドレス、携帯電話番号を開示いただける方
- ・オンライン会議、SNSグループに参加可能な方
- ・月2回の活動に参加可能な方
- ・原則無償の活動となります
- ・登録期間は令和8年3月31日までです。
(美術館の承認により登録更新も可能です)

2. 募集方法

申込締切…令和7年6月30日（当日消印有効）
HPに掲載の申込書にご記入いただき、メールもしくは郵送でお送りください。追って説明会の日時をお知らせします。
※メールの場合タイトルに「ボランティア応募」と記載、郵送の場合封筒に「ボランティア応募用紙在中」と朱書。

3. 申込先

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館ボランティア担当
TEL 0776-25-0452
FAX 0776-25-0459
Mail: finearts@pref.fukui.lg.jp
※応募書類はお返ししませんのでご了承ください。
※ご記入いただいた個人情報募集に関する連絡以外には使用しません。

お知らせ

令和7年度 福井県立美術館 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描(デッサン)」「水彩画」の基礎講座(4～5月・10回)と、同内容の専門講座(5～10月・25回)の受講生を募集します。

※詳しくは美術館ホームページ、または館内設置の募集要項をご覧ください。

◎定員

- 日本画(基礎講座・専門講座)／定員各15名
- 洋画(基礎講座・専門講座)／定員各15名
- 素描(デッサン)・水彩画
(基礎講座・専門講座)／定員各30名

◎募集期間

- 基礎講座 募集は終了しました
- 専門講座 3月22日～4月19日まで

◎2025年3月～6月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。※■は休館日です。

2025年 3 月 March							4 月 April							5 月 May							6 月 June						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					
30	31																										



▲美術館のHPはこちら